

令和4年10月1日

各 区 長 様

三木市教育委員会教育振興部
学校再編室長 鍋 島 健 一

小中一貫教育推進協議会レポート「ふれあい No.1～No.3」
の回覧について（ご依頼）

初秋の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日ごろから三木市の子どもたちの教育に多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、将来の三木市における教育と学校施設の方向性について、学識経験者、地域、保護者、学校の代表の皆様からご意見をいただくため、三木市小中一貫教育推進協議会を今年度6月に発足し、協議を進めているところです。

これまでに3回の会議を開催し、この協議会の様子について広く市民の皆様にご知っていただくため、レポート「ふれあい」を作成いたしました。

お手数をおかけして申し訳ありませんが、回覧につきましてご協力のほど、よろしく願いいたします。

なお、三木市のホームページでは、協議会に関する資料や小中一貫教育に関する取組などを順次掲載していきますので、あわせてご覧ください。

問合せ先

三木市小中一貫教育推進協議会事務局

（三木市教育委員会 学校再編室内）

担当 なべしま たけうち 鍋島 武内

〒673-0492 兵庫県三木市上の丸町 10-30

電話 0794-82-2000

FAX 0794-83-3699

6月1日(水)午後7時から、第1回小中一貫教育推進協議会を開催し、学識経験者、地域、保護者、学校の代表で構成する12人の委員で三木市の小中一貫教育について話し合う協議会をスタートしました。委員長には、神戸大学大学院山下教授、副委員長に兵庫教育大学大学院安藤准教授を選出しました。第1回協議会の様子をお知らせします。

1 「小中一貫教育」の理解を深めるため、ABCの3つに分けて教育委員会から説明しました

A 「小中一貫教育とは」

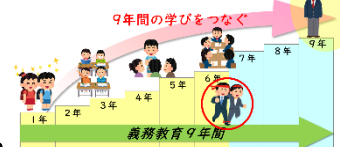
- ・「6-3制」は戦後約75年間、日本社会に定着している。
- ・15年ほど前から「いわゆる中1ギャップ」が顕著になる。
- ・小6と中1のつながりに着目し、小中連携に取り組んできた。
- ・いじめ・不登校等「子どもの課題」は、小学校卒業では終わらない。
- ・小中一貫教育には、未来につながる力を育む大きな可能性がある。



キーワード「小中一貫教育とは、義務教育9年間の学びをつなぐ教育」
(9年間で支え、導く仕組み)

B 「三木市の小中一貫教育」

- ・子どもたちの9年間の「姿」「学び」「心」をつなぐ。
- ・中学校区で「めざす15歳の姿」を作成する。
- ・切れ目のない9年間を見通したカリキュラムを作成する。
- ・心理的な課題に対応するため、小・中学校教員の見守り体制を強化する
- ・導入によって、「教師が変わる」→「授業が変わる」→「子どもが変わる」
- ・5か年計画で実践的な取組に着手し、全市的に推進する。
- ・「三木市ならではの」の小中一貫教育を進める。



キーワード「めざす15歳の姿の共有による「離れていても小中一貫教育」を推進」

C 「施設一体型の学校施設」

- ・同じ敷地内に小学校と中学校が建ち、学校生活を共に過ごす。
- ・日常的に小・中学校の子どもがふれあう「時間」と「場所」がある。
- ・上級生がリーダーシップを発揮し、下級生はあこがれを抱く。
- ・1つの職員室で小・中学校の教員の交流が深まる。

キーワード「小中一貫教育を最も効果的に行える環境(学校)」



2 意見交換の様子を紹介します(ワークシートに記入があった内容を含む)

《学校・教育内容関係》

(疑問点?については、2回目以降の協議会でお答えします)

- ・小規模小学校から大規模中学校への進学時、中1ギャップが強烈。対策について?
- ・三木市ならではの取組が大切で教育課題の明確化が必要。意義や目的の明確化につながる。
- ・中1ギャップとともに、幼児教育と小1とのつながりを大切にしてほしい。
- ・先生が一方向的に進める授業ではなく子の意見交換の場が増え、意欲向上につながってほしい。
- ・小中では学校の文化が違うが、良いところは残す。小学校はより子どもの「自立」を目指す。
- ・地域の教育力の活用をどのように推進していくか?

《 教員関係 》

- ・小中一貫教育実施時、教員免許についてはどのようになるのか？
- ・教員の資質向上に向けた具体的な研修プログラムの実施について望む。
- ・教員の意識改革が最も大切。交流、研修等具体的取組や実践を積み上げたい。
- ・小中の子ども同士が環境に慣れるのは早いですが、教員間はどうなのか？
- ・教員の協働体制構築に時間がかかるという課題がある。良い学校経営事例の紹介がほしい。
- ・異学年授業、加教材作成等を小中で企画調整できれば、職員の交流が深まったと言える。
- ・校長は一人だけなのか？
- ・生徒数に対する教員数の比率は増加するのか？



《 小中一貫教育(9年間つながる学び)の制度 》

- ・「児童生徒の安心」が小中一貫教育のキーワードの1つだと思う。
- ・小1と中3では、身体・精神面が大きく異なるが、一貫教育(同じ場所)で可能か？
- ・小学校6年間と中学校3年間が別で考えられていたことに驚いている。
- ・中学入学が良い意味で「新しい出会い等」リセットとなる生徒がいる。一体型の学校では？
- ・小中連携より有効な方法として小中一貫教育をアピールするには更に事例やエビデンスがいる。
- ・このような説明の機会をより多く設定し、教員・保護者・地域の「不安」を夢や希望に変えたい。
- ・9年間という長い間、いじめのヒエラルキーが変わらないことが不安である。
- ・6-3と年数を区切った意図は何だったのか？ 制服や部活動は？
- ・図書室、ラウンジ、プール等、地域の方も使えたらよい。学校教育と社会教育の融合が必要。

《 教育の特徴や施設一体型の学校への共感意見 》

- ・日常の教員、子どもの交流を考えると、施設一体型のメリットが大きいことは明らか。
- ・将来的に目指すことは素晴らしい。移行までの子どもたちへの取組(教育)も大切である。
- ・9年間の学習計画でつまずきやすい課題を共通理解し、個に応じた指導ができるのは良い。
- ・ここ数年で一体型にはならないと思うが、中学生がリーダースhip をとり成長するのは良い。
- ・いじめ、不登校がある中、9年間で支え導く仕組みは理想の教育だと思う。
- ・映像で施設が見えると夢や希望につながる気持ちになった。



インフォメーション

- ・第2回協議会は、7月26日に開催予定です。予定している意見交換のテーマは、
「子どもにつけたい力」
「施設一体型小中一貫校」等を予定。
- ・第3回協議会は、8月後半に加東市にある東条学園の視察を計画しています。

お問い合わせ

三木市教育委員会学校再編室
電話 0794-89-2400

- ・ホームページも
ご覧ください。

ホームページURL

<https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/61/4046.html>

又は、「三木市 学校再編」で検索



7月26日(火)午後7時から、第2回小中一貫教育推進協議会を開催しました。前回委員から出された疑問に対する回答に続き、「子どもにつけたい力(子ども像)」、「施設一体型小中一貫校(先進校視察に向けて)」の2つのテーマで意見交換を行いました。

1 前回の疑問への回答

Q1 いわゆる中1ギャップへの対応をどのようにしていくか。

A1 小小連携(小学校間の事前交流)、小中連携(授業・部活動体験等)を実施し入学時の環境変化への不安を軽減していく。学習内容の不安を軽減できるよう努める。

Q2 地域の教育力の活用をどのように推進していくか。

A2 地域とともに子どもの学びを支える「コミュニティ・スクール」という制度の導入を考えている。

Q3 小中一貫教育実施時、教員免許についてはどのようになるのか。

A3 小中両方の免許所有が望ましいが、現状では、小学校、中学校どちらかの免許でも、学校運営に大きな支障はないと先進地域の学校から確認している。

Q4 施設一体型の小中一貫校では、校長は一人だけなのか。

A4 多くの学校は校長1人、教頭2~3人だが、学校規模や市町村の考え方による。

Q5 児童生徒数に対する教員数の比率は増加するのか。

A5 教員数は、法律(及び県の基準)により決まる。小中一貫校の場合、小学校と中学校でそれぞれ計上し、合計することを基本的な考え方としている。

2 テーマ:子どもにつけたい力 どのような子どもに(大人に)育てほしいか

《意見交換前に未来の社会予測と子どもの現状について共有》

未来の社会

2040年の社会(現小6が30歳)を5500人の研究者の予測を元に文部科学省が表した絵図について事務局が解説を行いました。

驚くべき科学技術の進展が描かれていますが、今の子どもたちが生きていく社会の近未来像です。

【参照ホームページ】

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa202001/detail/1421221_00015.html

学校の現状

2人の学校長(委員)から、今の小学校と中学校の現状や子どもの様子について紹介がありました。

- ・タブレットPC1人1台配布により、学びの幅や質が変わった。教師による子どもへの指導方法も変化する。
- ・目立った問題行動が少なくなった。
- ・子どもの中で「失敗したくない」という気持ちが強い。
- ・親がソフトになり、親子の距離感が近い。

《委員の意見》

- ・親子でスポーツをする際、技術面はタブレットが教えてくれる。親はメンタル面を教える。タブレットで正解はすぐ手に入るが、自分で吟味して身に付けてほしい。
- ・小さい集団でならば、失敗を恐れず意見を言い合える。学校においては、そのような機会の中で、伝え方や相手を傷つけない方法を学んでほしい。
- ・不易と流行があるが、2040年の未来像は、変わってはいけないことが抜けている。優しさや思いやりを大切にしたい。地域活動する際でも子どもの笑顔を引き出したい。
- ・文章のやりとりでは伝わらないこと(LINEなどでトラブル)がある。実際に発する言葉で、しっかり伝える力(コミュニケーション力)を身に付けてほしい。

- ・知りたいことはタブレットですぐ画面に出るが、本物に触れ感動してほしい。調べ、ページをめくり、覚え、そして実物に出会い、精神の豊かさを失わないでほしい。
- ・2040年の未来像に驚いたが、子どもたちはその中で生きていかねばならない。その力をつけることは大変だが、しっかり教育してもらいたい。



3 テーマ: ①三木市の現状等からの感想 ②先進校視察に向けて

《三木市の子ども数の現状とこれまでの教育委員会での協議の進展(小中一貫教育)について共有》

I 中学校区ごとの小中学校児童生徒数(R4.5.1現在)

①三木中学校区	1486人
②三木東中学校区	953人
③別所中学校区	421人
④緑が丘中学校区	1149人
⑤自由が丘中学校区	1105人
⑥吉川中学校区	317人

※ 三木小学校は、進学先が分かれるので①、②の両方で計上

II 三木市の子ども人口(5~14歳)予測

- ・国の機関の推計によると、三木市の子ども人口は、2045年に計2982人となることが予測されている。
- ・1学年あたりにすると約300人となる。

小中一貫教育に関するこれまでの協議(抜粋)

I 三木市の学校再編について提言書 R1.8

- ・小中一貫教育(小中一貫校・義務教育学校への再編)をめざすこと。

II 学校再編に関する実施方針 R1.10

- ・「施設一体型」の小中一貫教育をめざす。
- ・第1学区(吉川地区)については、できるだけ早い再編を実施する。

III 総合教育会議

- ・施設一体型の学校の良さを共有した。R1.9
- ・吉川地区に施設一体型小中一貫校を建設し、モデル校としたい。R3.7
- ・学校同士が離れていても、全ての学校において「小中一貫教育」を推進する。R3.7

《委員の意見》

- ・切磋琢磨できる場が大切と考えている。統合を経て吉川小学校の子どもたちは、友達が増え、いろんな遊びや学びができることを喜んでいる。

【先進校視察を通じて知りたいこと】

- ・教科担任制の充実の実際 ・修学旅行等 行事の持ち方、位置付け
- ・評議会と生徒会の違い ・PTAの関わり方 ・家庭学習時間のめやす
- ・ステージ制、6-3制等様々な区切り方の意味や特徴ある行事の価値
- ・制服のあり方(ジェンダーへの配慮)、コミュニティ・スクールの推進

(ワークシートより)

- ・めざす学校像やめざす教員像などは、事前にどのように決定していったのか
- ・中学部教員がどのように小学部の授業に関わっているか、部活動の開始学年や指導者の配置
- ・小中一貫教育を推進しやすいと考えられる児童生徒数、東条学園の子ども・教員の思い
- ・体育館、教室等のサイズ、特徴ある施設について

東条学園は、新しい校舎での教育が始まって1年経っていないが、可能な範囲で疑問点を届け、回答を得たいと考える。



インフォメーション

- ・第3回協議会は、8月25日の午後に加東市にある東条学園の視察を行い、帰庁後に意見交換会を行います。

意見交換会は、17:20頃に開始予定
(視察から帰庁する時刻により前後します。)

場所:三木市役所5階 大会議室

お問い合わせ

三木市教育委員会学校再編室

電話 0794-89-2400

- ・ホームページも

ご覧ください。

ホームページURL

<https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/61/4046.html>

又は、「三木市 学校再編」で検索



8月25日(木)、加東市立東条学園小中学校を訪問し、学校施設の見学の後、学校生活の様子について校長先生に説明していただきました。

その後、三木市役所に戻り、第3回小中一貫教育推進協議会を開催し意見交換を行いました。

1 施設一体型の学校における小中一貫教育について

《第1. 2回協議会における疑問点について、校長先生から説明を受けました》

【授業】

- ・3, 4年生は一部、5, 6年生は完全教科担任制、外国語は中学の英語教師が担当
- ・6年担任の1人は(中学社会免許所有)国語・社会のみ、もう1人(昨年まで中学校数学教師、小学校免許所有)は算数のみ授業を受け持っている。教材研究等の時間確保につながる。

【学年の区切り 4-3-2制】

- ・「6年生の活躍の場が無くなる」という意見が保護者からあったがリーダーとなる機会が、6-3制に比べ1.5倍(4, 7, 9年)になる。4年生がしっかりする。
- ・いわゆる中1ギャップの6-7年生間の段差を、4-5年生間に2年早め、対応する制度

【行事】

- ・儀式的行事については、1年生が入学式、6年生が前期課程修了式、7年生が後期課程進級式、9年生が卒業式を挙げる。
- ・6年生は広島へ校外活動、9年生は沖縄(鹿児島)を修学旅行で訪れ、平和について学びを深め、6-9年生で交流(発表)し、つながりのある教育を実施

【制服・部活動】

- ・5年生から制服を着用する。男女区別なく、2種類(上がブレザー、下がズボンかスカート)のどちらから選んでも良い。
- ・保護者と相談し、今年の夏から5, 6年生が部活動に参加している。今後、週に2回程度の参加となる。



【コミュニティ・スクール】

- ・学校経営方針の中に①通学路の見える化(注意喚起ののぼり旗設置等)や②地域での児童生徒の作品展覧機会の増加の2つを挙げ、実現に向けて取り組んでいる。

【PTA 活動】

- ・開校を機に組織改編を実施した。学校運営協議会を上位機関とし、役割分担

【意識調査の結果】

- 8, 9年生に「1, 2ステージ(1~4年, 5~7年生)の手本になりたいか」と聞いたところ・・・
「非常に!」が8年:75.7%、9年生:87.1% (肯定的評価合計は、それぞれ97%と98%)
⇒ 頑張って「良い手本になりたい」という意識は非常に高まっている。

《視察時の質疑応答 抜粋》

Q1 施設一体型の学校への再編前に保護者が不安に思われていたことは何か。統合後の現在はどのような状況か。

A1 「同じ校舎に中学生がいて怖いのではないか」「昇降口で小中学生がぶつかるなどの心配があるのでは」といった不安が寄せられていた。

⇒昔は、地域で上級生下級生でグループをつくり、困ったことがあればグループ内で助け合っていた（他のグループから守る等）が、その感覚に近い。

⇒1年生と9年生がペアで掃除をしているところがある。ほうきで掃く9年生の後ろを1年生が雑巾がけしたり、寝転がってしまう1年生

を9年生が声を掛け、励ましたりする姿が見られる。

・学校生活がスタートすると保護者の不安もなくなり、

小中一貫教育を好意的に捉えていただいている。



Q2 4年生に対し、どのようにしてリーダーシップを育むのか。

A2 運動会の開会式は1-9年まで合同で行うが、その後は1-4年生のみが小グラウンドに残り、運営を4年生が担う。その他の行事でも意図的に4年生に任せる。

Q3 1-9年生が同じ施設を使うが、トイレ等の施設は、どのようなサイズなのか。

A3 階段の段差については小学生に合わせている。トイレその他の施設設備については、各階ごとに学年の発達段階に合わせた造りとしている。

2 第3回協議会 意見交換 「今後の三木市の小中一貫校の方向性について」

《三木市全体をどう構想していくか、どのような校区割りとするかなど》

・小中一貫教育を各中学校区で推進しているので、新しい単位（校区）にし直して進めるとするのは難しい。視察時に出た通学の課題もあるので、6校区を単位として進めていくのが現実的であると考えます。

⇒かつてはもう少し異なる区切りで考えていた。中学校区単位であれば地域との結びつきもある。意見によっては三木市をもう一度割りなおすというのものもある。

- ・1つの小学校から2つの中学校に進学する学校の課題がある。
- ・現段階の離れていても進めていく小中一貫教育のソフト面の内容の充実が大切
- ・実践推進校指定を受け、地域では「どこに施設ができる？」ということが話題になる。施設一体型の新しい校舎には説得力があり、未来を担う子どもを育てていくぞという気になる。
- ・小・中学校の教職員が共に子どもの育ちを支えていく視点が大切である。

・小中合同の活動について、保護者に伝えたのは、行事を一緒にすることが目的でなく、その前後で子ども・そして教員同士の交流が大切なこと。その取組の感想を子どもたちから保護者に伝えてほしいと思っている。

・現在の校区となれば、単学級でクラス替えがない。中学校区での実施は現実的だが、単学級は現場では苦しい。そこが何とかしてほしい。

⇒保護者の不安をなくすのは、意を尽くして議論し、それをしっかり説明することである。

⇒数(学校数)は独り歩きするので、中身をしっかりと話し合い、意見書にまとめる。



小中一貫教育

施設の紹介

加東市立東条学園小中学校の視察より

《多目的スペース》

教室のとなりや廊下の端など、各所に「ゆったりとした空間」を設けています。

学級や学年を越えて子どもが集い、発表会や集会、グループ学習、自習スペース、情報交流など様々な用途に応じて、学びや発想が広がります。



《図書室》

小中の子どもが集い、本や資料に触れ、個別・グループ様々な学びが生まれてきます。

採光や窓から見える景色にも配慮し、子どもたちがいつでも「行きたいな!」と思える場所になっています。

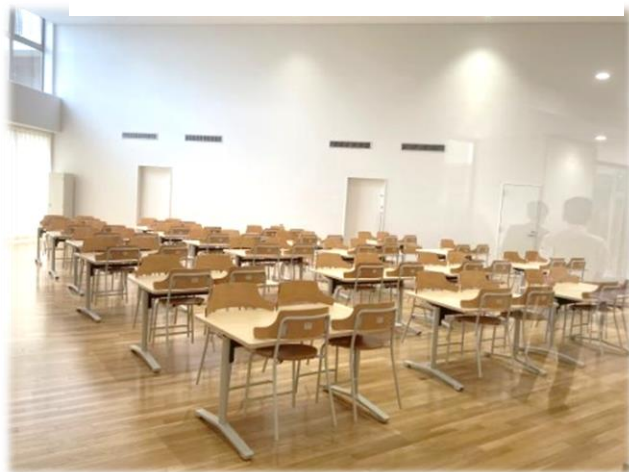


《ランチルーム》

「学年のみんなで」「小中の垣根を越えて」給食を食べながら交流できる空間です。

小さなホールや会議場としてのほか、地域交流スペースとしての活用も可能です。

※コロナ禍の今は使用に制限がありますが、多くの新規施設で採用されている施設です。



《体育館》

学校規模によっては、大・小2つの体育館や運動場が必要です。 ※単学級の学校については、1つずつの場合が多いです。

外部からの入り口や施錠方法を工夫することで、地域の社会体育等で、より有効活用することができます。



《その他の小中一貫教育(9年間の学び)に配慮した施設》



階段ごとに色分けし、どこにある階段かを分かりやすくしています。



手洗い場は、発達に合わせ、階により高さを変えています。



小・中で2人の養護教諭が保健室で温かく見守ります。



つながりのにわ(中庭)では小・中学生が集い、多くの目で見守ります。



水が汚れにくく、外から見えにくい屋上設置の大・小プールです。



1中2小の歴史を展示するメモリアル展示スペースです。

3 第3回協議会 意見交換「施設見学を通しての感想」

- ・口(ろ)の字型の校舎配置は行き止まりが無く、どこかにたどり着き、誰かに出会い、声を掛け合える。
- ・教職員間の共通理解のためには、職員室が1つであることが大切だと感じた。
- ・予算のことがあがるが、ぜひ、施設一体型の学校設置に舵を切ってほしい。
- ・「想像以上や!」と子どもが言ったそうだが、想像以上に細かな工夫がしてある。
- ・学校建設に至るまでの準備がしっかり整えられ、建物、教育理念には工夫が込められている。これを参考に三木市でもっと良いものを目指してほしい。
- ・うらやましい。三木も頑張ってもらいたい。ただ、何もかもが完璧で、考えなくても自動的に使える感じがしたので、思考力や個性を育てる工夫がいる。
- ・図書館や体育館が社会教育で使えるなど、市民サービスや社会教育施設としての機能を入れ、子どもと市民の教育施設になると良い。
- ・鍵の管理も地域に任せると良い。大人が学んでいるところを見る機会をつくり、地域の大人と小中学生、教員がつながり、地域ぐるみで9年間見守っていく。

校舎に関するキーポイント

- 1 **1つの職員室**で、教職員の協力体制づくり
- 2 小学生と中学生と一緒に生活すると、
小学生は**あこがれ**の気持ちを持ち
中学生は**良き手本**になろうとする

加東市教育委員会より

お問い合わせ

三木市教育委員会学校再編室

電話 0794-89-2400

・ホームページも
ご覧ください。

ホームページURL

<https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/61/4046.html>

又は、「三木市 学校再編」で検索

※ 第4回協議会は、10月19日を予定しています。

